鎌倉市立御成小学校旧講堂保存活用計画案に関する保護者・住民説明会　質疑概要

１　日時

　　平成28年11月 20日（日）　午前10時00分〜11時40分

（旧講堂見学は午後12時30分まで）

２　会場

　　鎌倉市役所講堂（第3分庁舎１階）、御成小学校旧講堂（見学希望者のみ）

３　出席者

(1)　市民（御成小学校保護者含む）23名

(2)　事務局等

ア　鎌倉市

佐藤教育部長、齋藤教育部次長、濱本学校施設課長、柳町課長補佐、丸山職員

都筑建築住宅課長

イ　コンサル業者

㈱マヌ都市建築研究所　３名

４　主な質問・意見及び回答

・外壁は木板であるが、周辺の防火対策と登録有形文化財の部材の保存の兼ね合いはどのように考えているか。

→現状の部材は可能な範囲で再利用することを考えている。背面側は教室の増築棟が隣接しているため防火を考慮した仕様を考えている。

・御成小旧講堂の説明会に御成小学長が来ていないのはどうしてか。

→校長先生は御成小学校保存活用計画策定委員会の委員であり、会議を通じ意見を聴いている。今回の御成小学校旧講堂保存活用計画に関しては学校施設課が主催の説明会であるためである。

・御成小学校の校長先生と保護者にも声掛けし、意見を届けてほしい。

→ここで頂いたご意見は校長先生と保護者の方に声を届ける。

・寄附はどのくらい集まっているのか。

→30万円ほど集まった。

・付図９と10の消火栓であるが、円の中心に消火栓があるという認識でよいか。

→そのとおりである。図の上部２つは新設となる。

・旧講堂の活用方法については子どもたちのために使うというのは賛成で、一般市民にというのを早急に考えることはないと思う。放課後や休日や夜間では、御成小学校以外の児童も使える学童施設や児童館などとしての活用はどうか。旧図書館を当てると聞いているが、子どものための施設としては使いにくい建物だと思う。

→学校が使わない時間の活用については、今後の検討課題である。改修が終わった時点の児童数や各室の使い方を考慮し、学校が使っていない時間等判断する中で決めていくことになると思う。

→学童保育は旧図書館で検討中である。休日、夜間の一般市民の方への開放はどこまで可能なのか、今後検討していく。

・近所に住んでいるが、まず子どもたちにとっての居住性など教育環境を考えてから建物について考えていくべきである。旧講堂は長い間、使われていなかったものを放置している状態であり、毎日見ていて危険であると感じる。子どもたちのために旧講堂は撤去し、子ども達の施設を造ってほしい。改修費用はいくらか。

→平成10年当時で、一度、部材を解体し、組み立てる工事で３億円程度であった。基本設計で工事費については詰めていく。

・内部、外観、利用を含めて文化財的な価値があると思う。空間と活用の内容が一致していないのではないかと思う。この空間を活かした活用はできないのか。また、外観のイメージががらりと変わってしまう気がする。

・付図３に特別教室等や図工室として利用すると説明があったが、学校と話して決まった内容か。

→学校の要望を取り入れている。

・渡り廊下の位置はどこになるのか。

→具体的にはまだ決まっていない。今後の検討課題である。

・児童が使用するために改修の予定が立ったことはうれしく思う。長らく放置されている状態は悲しく思っていた。子どもたちだけでなく皆が親しめるような場所になるとよいと思う。子どもたちが安全に利用できるというのが大前提だが、子どもたちだけでなくても使えるようにしてほしい。旧講堂に興味を持った人が入ってどういう建物か見れるような形も検討してほしい。塔屋の部分は、子どもたちが登っていけるようにしたり、また、市民開放時に市民も登って説明を受けられるような機会ができないか。子どものころに塔屋に登った方もいると聞いている。

→旧講堂の用途としては「博物館」ではなく「学校」という位置づけである。学校開放は今後の検討課題であり法的な制約の中で今後、関係機関と検討していく。塔屋は登れるものではない。現在は耐震に課題があるため内部に入ることができないが、耐震補強を行い、安全性を確保した上で、市民の方には他の校舎と同様に見ていただけるようにしていきたい。

・パブリックコメントを求めているが、学校施設として決まっているので公募する意味がないのではないか。

→簡単に経緯を振り返ると、平成８年に新校舎が完成した当時、旧講堂は学校施設として使わないという方針であったが、その後紆余曲折があり、現在は児童数が増加し、学校の教室不足と旧講堂の文化遺産としての両立の検討を大前提として検討が始まったものである。いろいろなご意見があると思うが、頂いたご意見は計画の見直しなど含め市の内部で検討していく。

・御成小学校の保護者であるが、本説明会を地域の回覧板で昨日知ったが、どのように周知したか。

→「広報かまくら」の11月15日号で掲載している。御成小保護者へのお知らせも児童を経由し全保護者へ配布している。

・旧講堂の歴史について、今、通っている子どもたちは知らない。御成小学校の在校生に大事な歴史について教育の中で発信していくことが大事である。

→校舎の歴史や由来などを伝えることを、学校と相談して検討していきたい。

・御成の史跡としても旧講堂や旧図書館は残していくべきである。学校施設として寄附を募るのではなく、地下の遺構も含めて鎌倉の文化遺産として捉えて、活かしていかなければならないと思う。

→国の登録有形文化財建造物として申請中である。遺跡を含めた幅広い保存活用については他の関連部署と検討できたらと考えている。

・鎌倉の児童数の推移についてはどう考えているのか。

→全国的に人口が減少していく中で、鎌倉市も10年20年という長期で見ると子どもも含め人口が減っていくというビジョンがある。長期的な学校のあり方をどうするか、人口の推移や校舎の老朽等の状況を踏まえ、計画を作っていく段階である。

・近年行った屋根工事は見込み以上の費用が掛かったと聞いているが。

→アスベスト材が含まれていたことにより緊急に行った修繕で、約2,000万円掛かった。

・パブコメのとり方が難しく、御成小学校の教育、歴史、建築の問題が混合している。広く意見をとった場合、次にどう取り組んでいくかが大事である。広報の仕方の検討も大事である。

→広報の仕方について今後検討していく。

・40代以上の卒業生は旧講堂の思い出があるが、今の子どもたちに旧講堂がどういうものなのか伝わっていないことが悲しい。子どもたちに伝えていくことが大事である。

・議会において、旧講堂は危険であるため解体した方がよいという意見もあったが、今説明された子どもの施設として活用していくことはよい方向に進んでいると思う。文化施設としては、今後、長いスパンで考えていく必要がある。

・今回の保存活用事業は、経費となっていくのか資産となっていくのか。これは経費でこれは資産と区分けをする必要があり、ごちゃ混ぜにすると結論が出ないと思う。イニシャルコストとランニングコストを計上して考えてはどうか。ランニングコストが大きくなると税金が大きくなり、市民の負担となる。市民としては負担してもすばらしいものが残るなら納得する。市民の声についてもマーケティングリサーチをすべき、総合的に積み上げて行ってほしい。

　意見募集のアンケートという紙でなく、対話で意見を聞くべきである。幅広い仕事をされている方々にも意見を求めるべきである。

・これまでの御成小学校改築時の説明会では町内の出席者はほとんどいなかった。今回の説明会で町内の方の出席はうれしい。グランドの雑草取りなどの校庭の管理は誰がしているのか。

→学校の日常的な維持管理は学校で行い、学校でできない修繕などは学校施設課が事業者と契約し実施する。